

nouvelle Fontaine

発行日 2025年10月25日

発行 岸和田文化事業協会

〒596-0073 岸和田市岸城町5-10

岸和田市立自泉会館内

TEL/FAX 072-437-3801

Email: fontaine@sensyu.ne.jp

https://jisen.jp

ヨハン・シュトラウス2世 生誕200周年記念コンサート ～ウィーンの風にのせて～

マリア小路里美



今回はヨハン・シュトラウス2世の生誕200年を記念し、彼の代表的なワルツ作品と、親友アルフレート・グリュンフェルトによる編曲作品をお楽しみいただきます。

私とピアノの出会いは、3歳の誕生日に叔父が贈ってくれたおもちゃのグランドピアノでした。4歳でレッスンを始めて以来、ピアノは私の人生に自然に寄り添う存在となりました。

1985年からモーツァルトの生家や音楽祭で知られるオーストリアのザルツブルクに住み始めました。敬虔なカトリック信者である母の影響もあり、現地の文化や人々に自然に親しむことができ、優しい大家さんにも恵まれ留学生活はとても充実していました。その後、より音楽活動に適した環境を求め1988年に拠点を移したウィーンで、素晴らしい出会いに恵まれ、学びに満ちた学生生活を送りました。今日まで音楽と共に歩んで来られたのは家族や友人、そして音楽を愛する皆様のおかげです。

ウィーン国立音楽大学の修士課程修了から、気づけば30年近く経とうとしています。今回、ウィーン音楽を皆様にお届けできることを嬉しく思っております。

シュトラウス2世は1825年10月25日、ウィーン7区のレルヒェンフェルダール通り15番地に生まれました

(10月25日は「ぬーべるふぉんてーぬ88号」の発行日でもあり、私には嬉しい偶然です)。今年はウィーン市庁舎でも盛大な誕生日式典が開催されます。父ヨハン・シュトラウス1世は《ラデツキー行進曲》で知られる有名な作曲家です。ある説によると、将来自分の子が競合相手になるのを恐れ、音楽家になることを強く反対していたそうです。けれども、お母様の理解と支えがあったおかげでシュトラウス2世は音楽の道へ進み、後に父が築いたウィンナ・ワルツを芸術の域にまで高めたのです(ちなみに弟ヨーゼフとエドゥアルトも音楽活動をしていました)。

シュトラウス2世の仲間たちは、彼のことを「シャニ」と呼んで親しんでいました。これはヨハンのフランス名「ジャン」がウィーン方言で変化した呼び方です。彼は明るく社交的で人気者でした。その一方、繊細で気難しい面があり、何事にも完璧を求める性格でした。彼の素晴らしい作品は、まさにその完璧主義から生まれたと言えるでしょう。

アルフレート・グリュンフェルトは1852年7月4日にプラハのツェレトナー通り38番地に生まれました。彼の家族も音楽一家でした。シャニとは27歳の年の差がありましたが、音楽を通じて互いに深く敬意を抱き合う友人同士でした。有名な《春の声》はグリュンフェルトに献呈された作品です。

私の演奏を通じて、ウィーンの風をほんの少しでも感じていただけたなら幸いです。皆様と会場でお目にかかれますことを今から楽しみにしております。

公演のお知らせ

ヨハン・シュトラウス2世生誕200周年記念企画 マリア小路里美ピアノコンサート

日時：2025年(令和7年)11月24日(月・祝) 午後2時開演(30分前開場)

会場：岸和田市立自泉会館ホール

泉州ゆかりコレクション

郷土史研究家

万代 博史

岸和田市を中心として収集してきたものを2022年から整理して「泉州ゆかりコレクション展」として市立図書館で展示していただいています。収集のきっかけは地域資料の収集家として鬼洞文庫を主宰されていた出口神暁氏の逝去に伴い、文庫の資料が散逸してしまったことです。残したいという働きかけも力及びませんでした。貴重な資料を岸和田市に留めることができなかったという思いが強く残りました。それ以降、折に触れて収集するようになります。

今までの展示を紹介しますと、絵葉書（現在図書館のHPで公開中）内畑出身の画家大久保作次郎氏と夫人の皮革工芸家大久保婦久子氏の作品展。明治時代に岸和田で発刊されていた「岸和田新聞」「白水新報」「岸和田実業新聞」など、ほとんど現存しない新聞類。幕末に岸和田藩校で指導した相馬九方や土屋鳳洲を中心とした学者群像。「描かれた泉州」として絵入り本や広重が描いた牛滝山の浮世絵。岸和田藩が出版した「重訂本草綱目啓蒙」や「本朝食鑑」に

絡めて「らんまん」の主人公牧野富太郎を紹介。岸和田ゆかりの日本画家小川翠村や江戸後期の画家日根対山の作品を展示しました。2025年9月から展示している広田雅久氏の版画については、大芝小学校等で教鞭をとられていた頃たまたまお世話になったことがきっかけで集めるようになりました。

2026年2月頃には図書館で岸和田ゆかりの「破鏡尼」を巡るお話をさせていただきます。岸和田藩士の娘、逸さんが膳所藩の重臣に嫁ぎます。夫君は松尾芭蕉の門弟の中心人物で、芭蕉が大阪で他界した際には遺言に従い膳所の「義仲寺」に葬りました。晩年、これが最後とおねだりをして岸和田への里帰りした際の「岸和田紀行」が、女性が書いた紀行文として研究書にも収録されています。実はこの「岸和田紀行」の原本を所蔵していたのが鬼洞文庫なんです。今はどこにあるのでしょうか。かえすがえすも惜しいことです。興味のある方は2月頃に図書館に足をお運びください。



歌川広重（二代） 諸国名所百景 「泉州牛滝丹楓」



一勇斎國芳 さん海愛度図会「あとが聞たい（泉州飯蛸）」

日本舞踊とともに生きて

日本舞踊家

藤間 勘史 卯

映画「国宝」の大ヒットで歌舞伎が注目を集めています。岸和田文化事業協会理事の藤間勘史卯先生は岸和田出身のふたりの歌舞伎役者を育てられ、今は彼らの活躍を見守り楽しみにしていらっしゃいます。2026年2月に開催の「藤間勘史卯 傘寿の会」を前にお話を伺いました。

勘史卯先生が関わってこられたのは上村吉太朗さんと尾上緑さん。吉太朗さんは片岡我當丈の部屋子として上村吉弥丈、緑さんは尾上松緑丈、それぞれの子で研鑽され歌舞伎役者として活躍していらっしゃいます。

マドカホールでの「傘寿の会」の日程が決まった後、様々なハプニングが続き、先生は会の取り止めも考えられたそうです。けれど尾上松緑丈と上村吉弥丈からお許しを得たおふたりが「師匠孝行に帰ります」と言ってくれた言葉で、開催を決心なさったとのことでした。

吉太朗さんの舞台との出会いは、上村吉弥丈と同級生のお祖父様に連れられて浪切ホールを訪れた保育園年長の時。楽屋で吉弥丈が白塗りをし、美しい姿へと変身していく魅力に取り付かれました。それをきっかけに小学校1年生の時『どんどろ大師 巡礼お鶴』で吉弥丈とご一緒の初舞台を踏んでいます。

緑さんは平成11年、岸和田文化事業協会が受け皿となった『詩劇まぼろしの小栗街道』で小栗役を演じています。照手姫は勘史卯先生。緑さんは当時、高校生でした。懐かしい舞台だと、先生は振り返っていらっしゃいました。

勘史卯先生自身は幼い頃「踊りの先生が出稽古に来るから習ってみる？」と、お母様が言ってくださったのが日本舞踊との出会いでした。以来、様々な踊りを勉強するうちに、古典舞踊に込められた先



人達のメッセージ、例えば権力に対する反骨精神や人間平等への強い想いに気づき、日舞を通して考える人権と文化再発見をサブテーマに会を続けておいでになりました。それは岸和田市の人権擁護委員として、人権教育に活かされています。

「いろいろあるけれど最後の舞台を緑や吉太朗、スタッフの皆様に支えられ頑張りたいと思います」取材は真夏の盛り。涼やかに着物を着こなされた笑顔の勘史卯先生。日本舞踊はもちろん、日本の文化や精神を次代へ伝えていただき、たくさんの人を育ててくださるよう、もっともっとご活躍いただきたいものです。

「藤間勘史卯 傘寿の会」どうぞ足をお運びください。

公演のおしらせ

藤間勘史卯 傘寿の会

日時: 2026年2月22日(日)午後1時開演
会場: 岸和田市立文化会館 (岸和田製鋼マドカホール)



私と自泉フレッシュコンサートの歩み

岸和田文化事業協会副会長 角野 芳子



今から18年前、2007年2月11日に3組の方々に声をかけ「自泉フレッシュコンサート」のプレコンサートをおこないました。

この約1年前から企画事業部会では、音楽を学び、プロフェッショナルとして歩み始める新人演奏家を応援・支援できないかと何度も話し合いをしてきました。また、当時の企画事業部会長であった本郷さんと共に、他市の若手演奏家コンサートなどに視察にも行きました。

要項も作り、やっと次年度の4月に「第1回自泉フレッシュコンサート」を開催する運びとなり、これより偶数月（年間6回）を基本として実施することになりました。このコンサートは新人演奏家のお披露目を目的に、また一般市民に廉価で楽しんでいただけるコンサートとして始まりました。

2年後の2009年には、更にその出演者の中から優れた方たちを選出し、自泉会館（100席）ではなく舞台のあるマドカホール（500席）で競っていただこうと試みたのが「フレッシュプレミアムコンサート～未来へここから～」です。

このタイトルを提案したのは当時会長であった松本則子氏。その言葉を聞いた時、鳥肌がたったのを今でも覚えています。何と素晴らしいタイトルの催しでしょう。岸和田からこのような発信ができることに私は誇りを感じました。

その頃48歳だった私はバリバリ演奏活動中で、自泉フレッシュコンサートに出演していただく若手を必死で声掛けしてきました。音楽関係の理事はもちろんですが、他の理事の協力もあり、今日まで出演者がいなくて開催できなかったという日はありませんでした。

1回のコンサートにつき3組出演を基本とし、1組につき30分の演奏時間、チラシやチケット作成、当日のスタッフは協会担当がおこないます。チケットノルマこそありますが、なかなかこのような若手支援を目的としたコンサートは周りにありませんでした。関西の各音楽大学にチラシや募集要項を置かせていただくと多方面から出演希望者があり、嬉しい事にキャンセル待ちまで起こりました。

当時の出演者も結婚し親となり、その子どもたちが「自泉ジュニアコンサート」に参加、また親子二世代で音楽に携わっている方々もいます。

18年の歴史を刻んだ「自泉フレッシュコンサート」は、今年度で閉会の岸和田文化事業協会と共に、10月17日の第80回で終焉を迎えました。まだまだ次の世代へと繋いでいきたい思いを残しつつ、今後は、現在も後進の指導に当たっていらっしゃる音楽関係者の皆様に託したいと思います。

自泉フレッシュコンサートへの想いは永遠に尽きることがありません。

泉州の 近代建築

vol.11

岸和田が誇る歴史。寺社仏閣や城下町はもちろん、趣ある近代建築も忘れてはなりません。その魅力や特徴を、大阪府ヘリテージマネージャーの山岡邦章氏にご紹介いただきます。

国登録有形文化財 自泉会館の保存と活用

大阪府ヘリテージマネージャー 山岡 邦章

「ふぉんてーぬ」の連載も今号で終わりという。ずいぶん心の赴くままにマニアックな建物について（時には庭も）書かせてくれたことに感謝する次第である。私が近代建築に興味を持つきっかけとなったのは、この文化事業協会に入る「自泉会館」なのは間違いない。

文化事業協会とこの自泉会館は、事業協会発足から共に歩んできた。自泉会館の歴史の相当な部分を担ってきたことは自明であろう。

さて近年、文化庁が提唱する「文化財の保存と活用」という観念が浸透し、日本各地のいたるところで文化財建造物が「活用」されている。しかしその「活用」とは時折、疑問符を抱くものも散見される。わかりやすく、かつ端的に言うと、ここで行われているのは文化財の活用ではなく「利用」なのである。

何が違うのか？

「活用」とは、その建物が持つ歴史を活かし、その場の歴史の重層性を担うことができる運用である。

「利用」とは、利用するだけで活かしていない、つまり、そんな使い方ならよそでもできますよね？と言いたくなる使い方のことである。

場の歴史の重層性、例えば自泉会館という場の歴史の積み重ねの延長線上にある使用、内容でなければ「活用」とは言えないのである。

自泉会館の歴史を顧みれば、とある会議所の事務所など、建物の歴史の延長線上には無さそうな使い方をされた時代もある。しかし文化事業協会が自泉会館に事務所を置き、さらに指定管理者となって運用されてきた歴史においては、安心して国民共有の財産である



昭和初期の自泉会館ホール（浅野恵子さん提供）

文化財建造物をお任せすることができた。

もちろん所管課である文化国際課の理解が深いことも、現在の良好な状態を維持する上で必須である。所管課も事業協会も、当方が何か言うまでもなく間違いなく建物を活用してくれて、なにか細かい修理をする際にも必ず相談されてきた歴史がある。今、文化財的な修理をしておかないと、先でさらに上の文化財指定などになる場合、少しでもおかしいことをしてしまうと文化財的な価値という面で困るからだ。だからである。現在は国の登録有形文化財ということで、改変自体は比較的緩やかな規制である文化財建物なのだが、実は指定文化財並の判断で修理を行い、先で困らないように厳しめの規制でこの建物の価値を保ってきた。それに付き合っていたいただいた所管課と文化事業協会には感謝申し上げたい。

さて、文化事業協会が解散を決定し、今後の建物の管理は次の指定管理者にゆだねられることになる。登録有形文化財という古い建物の「利用」ではなく、文化財の建造物として今後も「活用」されてゆくことを願う。



Ichigo-Ichien

～オーボエと生きていく～



自泉アーティストバンク

藤本 斗馬

オーボエとの出会いは高校1年生の時でした。中学の吹奏楽部にて3年間トロンボーンをしましたが、自分にはあまり合っていないように感じていました。そんな中、進学先の高校の演奏会でオーボエのソロに衝撃を受けました。管楽器でこんなにも人の声に近く、人の心にまっすぐ響く楽器があるのだと実感しました。

その時、トロンボーンからオーボエに転向する覚悟を決め、高校からオーボエを始めました。ですがオーボエは世界一難しい木管楽器ということだけあり、苦難の連続でした。ゼロからのスタートだったため、経験者に追いつけず悔しい思いをした日々や、逃げ出したい日々もありました。

そんな中、頑張ろうと踏ん張れたのは、大島ミチルさん作曲「風笛～あすかのテーマ～」に出会ったからです。この曲を聴き、この曲を吹くと心が落ち着き、オーボエと出会った時の事を思い出します。あれから月日が流れてもその思いは色褪せることはありません。

そうした経験を経て現在は、相愛大学音楽学部2年生特別奨学生として在籍しています。音大生になった今でもこの曲を吹くと初心に戻る事ができ、オーボエを続けてこられて、オーボエに出会えて本当に良かったと感じます。

僕にとってオーボエは、第2の自分だと考えています。自分らしさを表現できるアイテム。僕はこれから先、ずっとオーボエと生きていきたいです。

一期一会



自泉アーティストバンク

馬 溯鋳

私は馬 溯(マ スカイ)と申します。生まれも育ちも中国四川省で、日本に来て今年で七年目になります。大阪府立池田高校二年生で一年間の留学生活が始まり、相愛大学での四年を経て、現在は相愛大学大学院二年目として学んでいます。来年三月には修了を迎え、今後は演奏活動の続けながら留学生をサポートする仕事にも携わっていきたく考えています。

大阪での日々は、私にとってまさに「一期一会」の連続でした。音楽を通して出会った先生方や仲間、そして日々の暮らしの中で交わした何気ない会話や経験。その一つ一つがかけがえのないご縁であり、私を大きく成長させてくれました。嬉しいことも悔しいこともありましたが、その全てが私の人生の宝物となっています。

「一期一会」という言葉の重みを、日本、大阪での生活を通してより深く実感するようになりました。出会いは一度きりかもしれない。だからこそ誠意をもって向き合い、その瞬間を大切にしたい。これから先、どこでどのような人とご縁をいただけるかは分かりませんが、そのすべてが未来の私を形づくる力になると信じています。感謝の心を忘れず、自分の音楽と人生を豊かに育んでいきたいと思っています。

【藤本 斗馬(オーボエ)・馬 溯鋳(サクソフォン) 出演予定】

自泉ジュニア・フレッシュプレミアムコンサート

日 時:令和7年12月21日(日) 午後3時開演

会 場:岸和田市立自泉会館 ホール

※第2部の「第16回フレッシュプレミアムコンサート」に出演予定

Event Report

アンケートからの抜粋

協会主催の事業にご来場いただき、有難うございました。アンケートにご協力頂いた方の感想を紹介させていただきます。

アートフェスin自泉

日 時:令和7年8月1日(金)～3日(日)
午前10時～午後5時(最終日のみ午後4時まで)
会 場:岸和田市立自泉会館展示室
入場者数:286人



〈皆さんの声〉

- ◆それぞれの若い感性に驚きました。
- ◆素晴らしい作品ばかりで、これからも若い人たちの活躍を応援したいと思いました。
- ◆それぞれ個性のある作品で、楽しく観させていただきました。

～若手アーティストによるコンサート～ HANA Concert(ピアノ・声楽編)

日 時:令和7年8月3日(日) 午後2時開演
会 場:岸和田市立自泉会館ホール
入場者数:33人



〈皆さんの声〉

- ◆混沌とした世の中であっても、愛溢れる魂の歌声は心揺さぶり幸せへと導いてくれる羅針盤のようです。
- ◆音響・室内装飾ともに素晴らしく、声楽・ピアノを間近で聴くことができ、とても充実した時間でした。
- ◆このような催しを、若い人たちのために続けてほしいです。

～若手アーティストによるコンサート～ HANA Concert(ピアノ・室内楽編)

日 時:令和7年8月2日(土) 午後3時開演
会 場:岸和田市立自泉会館ホール
入場者数:36人



〈皆さんの声〉

- ◆外は酷暑ですが、会場は若々しく素敵な演奏で良い時間を過ごせました。
- ◆室内楽を聴く機会が少ないので、とても良かったです。
- ◆素敵な企画ありがとうございました。華やかな演奏で元気をもらいました。

南里沙 コンサート in 自泉 ～クロマチックハーモニカで辿る昭和100年～

日 時:令和7年9月23日(火・祝) 午後2時開演
会 場:岸和田市立自泉会館ホール
入場者数:70人

〈皆さんの声〉

- ◆自泉会館に初めてお邪魔しました。建物が素敵で音響が良く、クロマチックハーモニカの音色もピッタリでした。
- ◆ホールの響きがナチュラルで美しいと感じました。音色に風景を感じました。
- ◆初めてクロマチックハーモニカを聞きました。とてもきれいな音色で耳が喜んでました。



お知らせ

85号3面「おはなし聞かせて26」でご紹介しました齒黒猛夫さんが「2025年大阪ほんま本大賞 特別賞」を受賞されました。おめでとうございます！

「おはなし聞かせて26」

「2025年大阪ほんま本大賞 特別賞」



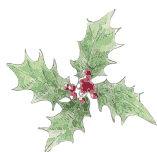
●ヨハン・シュトラウス 2 世生誕200周年記念企画
マリア小路里美ピアノコンサート

日 時:令和 7 年11月24日(月・祝) 午後 2 時開演
会 場:岸和田市立自泉会館ホール
出演者:マリア小路里美 (ピアノ)
チケット:前売2,000円(当日500円増)
定 員:80名



●サンタから歌の贈りもの●

日 時:令和 7 年12月20日(土)午後 2 時開演
会 場:岸和田市立自泉会館ホール
出演者:土生 夏未 (ソプラノ)
日和 充 (バリトン)
田口 菜穂 (ピアノ)
企画・進行:角野 芳子
チケット:前売2,000円(当日500円増)
定 員:80名



●第 9 回自泉クリスマス会 手作りワークショップ●

日 時:令和 7 年12月20日(土)・12月21日(日)
午前10時～午後 4 時
会 場:岸和田市立自泉会館展示室
出店内容:クリスマスやお正月に向けた手作り作品
作品制作時間:1～2 時間
材料費:500円～2,000円程度
※予約なし



●自泉ジュニア・フレッシュプレミアムコンサート

日 時:令和 7 年12月21日(日) 午後 3 時開演
会 場:岸和田市立自泉会館ホール
出演者:
○第14回自泉ジュニアコンサートより優秀な方
宮坂 紗和(最優秀賞 高校 3 年生 ヴァイオリン)
岸本 京(優秀賞 小学 4 年生 ピアノ)
辻西 愛果(優秀賞 中学 3 年生 ヴァイオリン)
○令和 7 年度自泉フレッシュコンサートより
優秀な方 5 名参加予定
チケット:前売1,000円(当日200円増)
定 員:80名

●3館合同事業「年始め紅白音合戦」

日 程:令和 8 年 1 月25日(日)午後1時開演
会 場:岸和田市立文化会館(岸和田製鋼マドカホール)
入場無料
定 員:300名
*****出演者を募集しています*****
応募期間:10月 1 日(水)～11月20日(木)
詳しくはチラシをご覧ください。
※応募多数の場合は抽選となります。



■チケット販売場所

岸和田市立自泉会館事務所

■申し込み・問い合わせ

岸和田文化事業協会事務局まで

〒596-0073 岸和田市岸城町 5-10 岸和田市立自泉会館
TEL/FAX 072-437-3801
E-mail fontaine@sensyu.ne.jp

※事業の詳細・チラシは、岸和田文化事業協会ホームページにも掲載しています。

ご 報 告

岸和田文化事業協会は、本年度(令和7年度)をもちまして解散する運びとなりました。
本誌ぬーべる ふぉんてーぬは「令和7年1月25日」が最終発行となります。
最後までお読みいただけることを願います。

nouvelle
Fontaine

vol.88

発行:岸和田文化事業協会
発行日:2025年10月25日

- ◆事務局
〒596-0073
岸和田市岸城町5-10 岸和田市立自泉会館内
TEL/FAX 072-437-3801
Eメール fontaine@sensyu.ne.jp
- ◆編集委員 小末もとえ・小木曾由季・黒木幸子
協力 近江和代・本郷元子

編集後記...

「今回は何を掲載しようか?」「誰に原稿をお願いしようか?」と少ない知識と知恵を絞り、多大なる皆さんの力をお借りし、どうにかここまで来ることができました。あと残すは最終号!最後までよろしくお願いします。(黒 木)



<https://jisen.jp>

岸和田文化事業協会

検索

